

13. 副腎皮質シンチが副腎内外の鑑別に有用であった褐色細胞腫の2症例

原田 治 田口 正人 城野 和雄
中條 政敬 篠原 慎治 (鹿児島大・放)

褐色細胞腫の局在診断における MIBG シンチの有用性は広く知られているが、今回われわれは ^{131}I -アドステロール副腎皮質シンチが副腎性か否かの鑑別に有用であった褐色細胞腫の2症例を経験したので報告した。両症例とも右副腎附近の腫瘍で、MIBG シンチでは著明な集積を示し、典型的な褐色細胞腫の所見であり、ホルモンの検査では、いずれも血中ノルアドレナリン高値、アドレナリン正常値で異所性を示唆する所見であった。またCT、血管造影ではいずれもその origin が副腎か否か判別しかねたため皮質シンチを施行したところ、一方は副腎の圧排所見を示し異所性が、また他方は完全欠損を示し副腎性が示唆された。手術の結果は皮質シンチの所見と一致し、その有用性が確認された。

14. ^{131}I -MIBG の副腎シンチグラムの検討

加藤 幸雄 前田 宏文 中島 彰久
六倉 正英 山田 宏平 芦沢 昭
(大分医大・放)
福嶋 藤平 春田 隆昌 船越 猛
(同・放部)

われわれは、昭和58年11月より昭和60年12月までに11例延べ16件の ^{131}I -MIBG の副腎シンチを施行した。対象は高血圧や副腎腫瘍があり褐色細胞腫が疑われたものである。5例(9件)に集積があり、6例(7件)に集積がみられなかった。

集積(+)の1例に肝癌があった。褐色細胞腫の5例中1例(2件)に集積がみられなかった。

ノルアドレナリンがきわめて高値であった点などより、MIBG の濃縮能が乏しいことや回転率などの薬物動態および取り込み抑制因子に関し、さらに検討したい。

15. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -DTPA の腎摂取率より算出した GFR について

石橋 正敏 森田誠一郎 梅崎 典良
大竹 久 (久留米大・放)
岩沢 敏光 福留 良文 神崎 好彦
(同・中放)

核医学的に算出した糸球体ろ過率(GFR)が腎機能の評価に役立つか否かについて検討を加えた。対象は147例で、腎機能から見た内訳は、腎機能正常例38例、腎機能異常例109例(この内12例は慢性腎不全による血液透析者)である。なお、今回はGates法に準じてGFR算出を行った。その結果、このGFRと24時間Ccr(33例測定)とは比較的良好な相関を示した。この方法は短時間にかつ簡単に総GFR、分腎GFRを算出することができ臨床的に有用であると思われる。

16. 結節性甲状腺腫のシンチグラムの検討

小島 和行 枝光 理 壇浦龍二郎
石橋 正敏 村上 秀典 沖永 利親
森田誠一郎 大竹 久 (久留米大・放)

今回われわれは、昭和58年より60年の3年間に手術にて確定診断がついた結節性甲状腺腫75症例につき、シンチグラム所見と手術所見の比較検討を行った。 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ シンチでは85.3%に所見を認め、そのシンチグラムパターンから、ある程度、良、悪性の鑑別が可能であった。また ^{201}Tl -chloride シンチの delayed scan は、良、悪性の鑑別に有用で overall accuracy が83.1%であった。また、 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ シンチで cold, ^{201}Tl -chloride シンチの early で hot, delay で集積のみられないものは全例が、follicular adenoma, $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ シンチ, ^{201}Tl -chloride シンチともに cold であったものは、99.4%が良性疾患であった。